

道具輿以下次第之事

一幕串 一張分 二幕箱略○下

〔倭訓栞前編二十九〕まく 軍陣にて敵のまくを引たるとも、うたせたとはいひ、御方のまくをうちたる、とりてなどいふ也、船にてははしらするといふとぞ、遊興にては廻すといふ、

〔鹽尻 十一〕一幕詞 幕用之詞、依品換詞、味方云討、敵方云引、敵方云走、味方云張、遊興云廻、是小笠原家躰方法也、

〔類聚名物考調度五〕まく 幕

幕をば引といひし也、今の世にはうつといふかゝる語は、武家の世となりて、戦の場には忌詞のあればかくいひしにや、

〔古今要覽稿器財〕あげはり帷 幕 帷

陣幕は、二張を陰陽一對、また一雙といひて、略○中 かつ御方にては打といひ、敵にはひくといふ、をさむるといふべし、はづすとはいふべからず、まぼるといふべし、あぐるといふまじ等の故實あれども、後世のことにて古には所見なし、

〔俚言集覽末〕幕詞 まかたはなし、昔老たる侍のいへるは、誰も幕詞まらずしてかなはぬ事なれば、おさなきもの迄もよくまりて、其詞をつかふ、味方の幕は打といひ、敵の幕はひく、船にははしらかす、座敷棧敷にはかこふ、葬禮の場にははる、幕た、むをまぼむといふは、備はりたる詞なれども、用捨の所ありて、幕あぐるといひ、又はおさむると云、或は野山の遊びなどにも、幕打、又はかこふ、扱た、むをも、右の心持なり、ある人はいはく、葬禮の幕はたる、旅所の幕はつるといふといへり、

〔更科日記〕かどでしたる所は、めぐりなどもなくて、かりそめの萱屋のまゝとみなどもなし、すだ